

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号：37105

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520283

研究課題名（和文）リアリズム小説に投影された「長い 19 世紀」におけるインテリア概念の変遷

研究課題名（英文）The Changing Ideas of Furnishings and Upholstery as Represented in Realist Novels in the Long Nineteenth Century.

研究代表者

三宅 敦子 (MIYAKE ATSUKO)

西南学院大学・文学部・准教授

研究者番号：10368970

研究成果の概要（和文）：

19 世紀のリアリズム小説にはインテリアの表象が多い。個々の作家の小説だけを取り上げて検討すると、それらはその作家の特徴や関心によるところが大きいという結論になりがちである。しかし、ディケンズ、トロロップ、ギッシング、ジェームズの小説に描きこまれたインテリアの表象を、19 世紀のデザイン改革運動や室内装飾の流行という文化史的文脈において考慮すると、各作家が活躍した時期のミドルクラスの人々が室内装飾に見出した文化的意味合いを反映していることが判明した。

研究成果の概要（英文）：

The nineteenth-century realist novels often contain the representations of furnishings and upholstery, especially in connection with the identity issue of characters and their desire to climb the social ladder. Those novels include works by Charles Dickens, Anthony Trollope, George Gissing, and Henry James. These representations tend to be interpreted as a part of literary craftsmanship of each novelist, if examined independently of other novelists' works and his contemporary cultural context of interior decoration. However, studying them together in the context of design reform movement throughout the nineteenth century reveals that those representations elaborately reflect the nineteenth-century socio-cultural connotations of furnishings and upholstery.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：英文学、文化史、19 世紀

1. 研究開始当初の背景

過去に受給した科研費（H16 年度～H18 年

度、H19 年度～H20 年度）による研究の結果、インテリアは 19 世紀のミドル・クラスの階級意識形成を探るうえで研究に値する

指標であることが判明した。またインテリア表象に的を絞った研究はまだ数が少ない。研究が全くないわけではないが、学問として確立されている分野においてまとまった研究があるのではなく、美術史、骨董趣味、などプロ・アマともに関心を持つ様々な領域に知識や情報が分散しているため、研究に時間がかかり、この方面の研究は日本においてはまだ萌芽状態である。

インテリア史という一つのつながった文化的文脈で 19 世紀のリアリズム小説を複数同時に研究するという切り口もまだ新しく、研究価値のあるテーマだと考えた。

2. 研究の目的

過去二つの科研による研究ではチャールズ・ディケンズ (1812~1870) とジョージ・ギッシング (1857~1903) を取り上げた。そこで本申請研究ではその間に活躍していた作家、アンソニー・トロロープ (1815~1882) の小説や、ギッシングとほぼ同じ時期に活躍したアメリカ生まれでイギリスに帰化した作家、ヘンリー・ジェイムズ (1843~1916) の小説を研究対象とし、その中にインテリアがどのように表象されているかについて研究することをその目的とした。

3. 研究の方法

研究方法としては、まず研究対象としたアンソニー・トロロープを中心に各作家の小説を分析し、インテリアに関する一次資料 (19 世紀当時の文献) を複製版や海外・国内の図書館で複写により収集し、それらを分析し、次にその分析を突き合わせて論文・研究発表にまとめた。

4. 研究成果

〔文化史的背景〕

1851 年にロンドンで開催された万国博覧会を企画したヘンリー・コールは、それに先立つ 1849 年 3 月にイギリスの産業生産におけるデザイン力向上を目指して *The Journal of Design and Manufactures* を創刊した。この雑誌についての研究成果が〔学会発表③〕である。

この雑誌の、当時珍しかった特徴に、実際の生地サンプルを雑誌に張り付けることで、好ましいデザインのイメージを具体的に読者に解説するという試みがある。イギリスという国家にとって織物産業は国の根幹を形作る産業として長らく君臨してきたが、特に綿織物については当初イギリスよりもインドで生産されるキャラコのほうがデザイン的にみて優れていた。産業革命による水力紡

績機の発明によって綿布の大量生産が可能になったイギリスは、万国博覧会を開催することで、イギリス産業界のデザイン力を向上させるのみならず、優れたデザインを世界に対して公表することで輸出力のアップを目指していた。とはいえ、当時のイギリスは芸術に関しては大陸よりも様々な面で遅れていたため、万国博覧会の企画者でもあったコールは万国博覧会の成功に結び付けるためにこの雑誌を創刊した。そのためこの雑誌では各業者に優れた生地を生産し雑誌に送らせて、特に優れていると認めたものをサンプルとして雑誌に張り付け、広く社会に周知していたのである。

特許についての法律整備がまだ不十分だったため、万国博覧会が近づくにつれ、掲載されるサンプルの生地数は少なくなったものの、博覧会終了後の 1852 年 2 月に雑誌が廃刊されるまで掲載されたサンプル生地数は、213 ほどになる。

雑誌が廃刊されたのと同月に、The Museum of Ornamental Art が開館。万国博覧会で展示されていた産業生産品がここに移され、人々に「優れた趣味」を学習させる場となったが、この博物館にはマダム・タッソー蠟人形館を思わせる“Chamber of Horrors”と称される悪趣味の製品を陳列した部屋があった。この後 The Museum of Ornamental Art はデザイン史を扱う現在のヴィクトリア&アルバート博物館へと発展していく。その動きと同時進行で、各地でデザイン学校が設立され、よい趣味を促進するために室内デザインに関して多くの書物が出版されるなどの動きがあった。

〔小説研究〕

ディケンズの小説もこの動きと無関係ではない。万博開催時に月刊分冊出版されていた『荒涼館』はその分冊の表紙に家具屋 Heal & Son のベッドの広告が掲載されるだけではなく、インテリアの表象にもまるで生産品が詰め込まれていたガラス製の展示場、水晶宮のように世界各地からの家具の描写があることについては以前に受給した科研費による研究の報告書で述べたので、今回は過去に取り上げなかった『ドンビー父子』(1848)について研究した。これが〔学会発表②〕である。

タイトル通り、ドンビー父子の家庭には母親が不在である。跡継ぎの一人息子ポールの出産の際に亡くなり、後には娘のフローレンスと病弱なポールが残された。この小説では温室のイメージが不適切な育成環境を表すのに何度も使用される。母親が亡くなると自宅の室内装飾は取り外され家具も布をかけられ、家ではなく温室のようにならざる状態になる。温室のような自宅から教育を受け

るべくしてポールが送り込まれた学校も、結局のところ不適切な教育環境で一人息子は亡くなるのだが、その学校を表すのに、気候的に見て合わない環境で植物に無理やり花や実をつけさせる場所というネガティブなイメージで温室を比喩的に用いている。温室は当時流行しつつあったものの一つで、ロンドン万博の水晶宮も当時有名だったダービーの館にあるガラス製の温室をヒントに作られた。

この小説を執筆当時のディケンズは、インテリアが人に与える影響に関心を抱いていた。この小説の執筆時期は墮ちた女性たちの更生施設ユレイニア・コテージの設立に携わっていた時期と重なるのだが、書簡を見ると更生施設の室内装飾にディケンズが関心を持っていたことがわかる。リビングルームに17世紀の説教集からの文章を記した碑銘をかけるなど住空間に置くものが住人の精神に影響を及ぼすことについての考察が見られる。

一方アンソニー・トロロープの関心はむしろ当時の習慣にあった。いわゆる情景描写がふんだんにあるディケンズの描写と異なり、トロロープの小説では会話文が多く、情景描写が少ない。特に結婚と財産にまつわる習慣が登場人物たちの会話を通して詳らかにされる形をとっているため、トロロープの小説にはディケンズやギッシングの小説によく見られるインテリアそのものの描写が極端に少ないことが判明した。

トロロープの小説に書かれるインテリアは室内装飾ではなくて、各部屋にはその部屋に応じた目的があり行動を違えるごとに部屋の間を行き来するという当時の習慣やマナーそのものだ。トロロープは小説を「生活を描く絵」と考えており、彼の小説では登場人物たちがこの習慣を忠実に守っている。これについての研究成果が〔雑誌論文①〕である。

The Small House at Allington(1864)という小説はそのよい例である。タイトルにある家を借りている夫人の立場とその娘たちの婚約、結婚がテーマである。この小説には地主の大屋敷、伯爵の屋敷、ロンドンのロウワーミドルクラスの下宿というように様々な階級の住宅が登場する。そのいずれにおいても同じ習慣が守られている。客間または応接間と呼ばれる部屋は女性の領域であること、そこは家族の大事な問題（たとえば結婚）について考える空間であり、当時の女性にとっての一大事である求婚が行われる空間であったこと、その一方書斎や図書室は男性の空間であり、男性が女性相手であっても大事な話をするのはその部屋であること、一家の主人はアームチェアに座ること、などである。

この時期、実のところ、19世紀のイギリス

ではどのような家を建てるべきか、またそのプランはどのようなものであるべきか、ということについての書籍が多く発行された。デザイン改革に伴うインテリアへの関心が、室内装飾やよい趣味のデザインを紹介する書籍を数多く生み出すことになったのと同様、紳士たるべき人間の家には応接間や寝室などがどのような配置であるべきかといった、住宅についての指南書もまた数多く出版された。この小説と同じ年には、当時を知る文献として非常に重要な書物となる建築家ロバート・カーの『紳士の家』が出版されている。トロロープの小説をこれらの住宅指南書を照らし合わせると、トロロープの小説世界では当日の住宅についてのマナーが実にきちんと守られていることがわかる。

小説を「娯楽の手段」とみなしていたトロロープとは異なり、偉大な19世紀の作家ディケンズを目標にしていたジョージ・ギッシングの小説にはディケンズ同様インテリア表象を含む情景描写の場面が登場する。

ギッシングが活躍する頃になると室内装飾に必要な家具は所得に応じたバリエーションが選べるほど種類が豊富になり、ロウワーミドルクラスの人間にも手の届くものとなっていた。19世紀半ばに始まったデザイン改革運動は19世紀末には当時流行していた審美主義と絡んでいく。1870年代後半から審美主義の画家たちが自宅の居間や温室などを絵画に描くようになり、室内装飾への関心も高まった。と同時に、室内装飾を特定の個人と結びつける傾向も高まり、家具セットの名前に王族や大きな館の名前を思わせる地名などが付くようになった。そのような家具を購入することであたかも自分が王族や大きな館の主になったかのような気分になり、そのような家具に対するあこがれがロウワーミドルクラスに広がった。ギッシングの小説にはそのような現象を裏付けするようなインテリア表象が見られる。これについての研究成果が〔雑誌論文②〕と〔学会発表①〕の一部である。

90年代前半に出版された *The Odd Women* と *In the Year of Jubilee* は、どちらもロウワーミドルクラスの女性の結婚がテーマである。前者には結婚してよい趣味のインテリアで飾った家を持つことに執着するミドルクラスの保守的な男性ウィドゥソン氏と愛情のない結婚し不幸になるモニカ、そしてこのカップルとは対照的に家具や家に固執せず愛情豊かな結婚生活を送るミクスウェイト夫妻が登場する。また *The Odd Women* は既婚女性財産法ができ、<新しい女>が登場した時代の作品でもあり、時代背景としてもインテリア産業に初めて女性が参入した時代を反映し、自立の象徴として自分の家具を購入する女性登場人物が配置さ

れている。

*In the Year of Jubilee*では室内装飾の主導権をめぐって父娘の間で争いが起こる様子が描かれている。ロウワーミドルクラス出身の主人公ナンシーは、アッパーミドルクラス出身の男性ライオネルと秘密の内縁関係を結ぶが、彼の住まいのインテリアを非常に気に入り憧れるものの、同時にその空間に違う階級出身の自分がそぐわずないことに気づき、不安を感じている。ところが彼女から妊娠を聞かされたライオネルはその部屋の蔵書や家具を倉庫に入れて、逃げるように南米へと旅立つ。小説の最後で帰国したライオネルは、自分で選んだ家具に囲まれ子供と住むナンシーと通い婚の形での生活に落ち着くことになる。

家具を所有することがミドルクラスとしてのアイデンティティを保つことになるという社会背景を風刺的に描いた小説をギッシングは残しており、その研究成果が〔学会発表①〕の一部である。ここではギッシングの1890年代後半に出版された『下宿人』のインテリア表象について研究した。

この小説はミドルクラスが憧れるロンドン郊外に何とかやりくりして住居を構えるマムフォード夫妻が家計の足しにするために下宿人ルイズを置くことで、ロウワーミドルクラス出身の彼女によっていろんな騒動に巻き込まれていく顛末を面白おかしく書いている。マムフォード夫人とルイズの会話では応接間の家具類が憧れの対象として何度も言及されるが、最終的にはその家具が火事にあい近隣住民から白い目で見られてしまう。家具の喪失がミドルクラスとしての体面（リスペクタビリティ）を失うことと同意という文化的文脈でインテリアが表象されている。

デザイン改革運動は美術館の設立へと発展したことは先に述べたが、この美術館という視点をうまくインテリアと絡めて小説に表したのがヘンリー・ジェイムズの『ポイントンの蒐集品』である。この研究についての成果が〔学会発表①〕の一部である。この小説は実際に生じた息子と寡婦の遺産相続裁判をもとに、審美主義の流行も反映しつつ、蒐集した骨董品を相続するべき人間は、法的資格のある人間か、それとも美的価値を理解する人間か、がテーマとなっている。この小説ではこれまでの小説に登場したインテリアという視点に、そのインテリアが金銭的・芸術的価値の高い骨董品であるという視点や審美主義の流行とともに流行った蒐集趣味というテーマを導入することで、室内装飾に重層的な意味合いを持たせている。

この小説にもインテリアが所有者のパーソナリティーと一体のものであるという考えが反映されている箇所があり、インテリア

の所有がアイデンティティの問題と結びついている。

以上概観したように、それぞれの小説におけるインテリア表象は作家の関心に応じた表象となっているが、それ以上にそれぞれの時代の文化的意味合いを反映したものとなっていることが判明した。

〔研究成果のインパクトと今後の展望〕

以上の研究成果は、論文・学会発表を通して公開したが、読者・聴衆に興味深いテーマだというコメントをいただいた。今後の展望としては今回当初は予定しつつも諸般の事情で研究できなかった小説の研究をすることで、今回の研究成果をさらに妥当性の高いものとしたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

① 三宅敦子、習慣の記録者としての Anthony Trollope—*The Small House at Allington*における居住空間の描写の分析—、西南学院大学 英語英文学論集、査読無、52巻3号、2012、pp.1-17

② 三宅敦子、家具をめぐる覇権争い—*The Odd Women*と*In the Year of Jubilee*に表象されるジェンダーの揺らぎ—、ヴィクトリア朝文化研究、査読有、8巻、2010、pp.31-46、<http://www.vssi.jp/journal/8/miyake.pdf>

〔学会発表〕（計3件）

① 三宅敦子、第三部門シンポジウム、ヴィクトリア朝中産階級の愛したインテリア—所有がもたらすアイデンティティ—、日本英文学会第85回大会、2013年5月25日、東北大学川内キャンパス

② 三宅敦子、『ドンビー父子』における園芸のイメージと nature vs. nurture 問題、ディケンズ・フェロウシップ日本支部平成24年春季大会、2012年6月16日、早稲田大学国際会議場

③ 三宅敦子、A Reflection of Changing Taste: The Display of Textile Examples in *the Journal of Design and Manufactures* 1849-1852., Research Society for Victorian Periodicals, 2010年9月11日、米国イェール大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三宅 敦子 (MIYAKE ATSUKO)

西南学院大学・文学部・准教授

研究者番号：10368970

(2)研究分担者
なし ()

研究者番号：

(3)連携研究者
なし ()

研究者番号：